海道東征を聴く

来年2月2日 海道東征コンサート
大阪 ザ・シンフォニーホール

平成28年「海道東征」コンサート（ザ・シンフォニーホール）

記紀が伝える建国物語を基に、北原白秋が詩に描き、大阪出身の信時潔が曲をつけた交声曲（カンタータ）「海道東征」。戦後70年と信時の没後50年にあたる一昨年、大阪で復活し、今年4月には東京でも公演された演奏会が来年2月2日、大阪にまた戻ってくる。公演を前に、曲の持つ意義を訴えてきた文芸批評家の新保祐司さんと、公演が行われる大阪市北区のザ・シンフォニーホール総監で滋慶学園グループ総長の浮舟邦彦さんに、その魅力を語ってもらった。

日本人のDNA 呼び起こす

文芸批評家
新保祐司さん

しんぼ・ゆうじ　昭和52年、東京大学文学部卒業。専門は日本近代文学。キリスト教や日本の伝統・文化に理解を示し、産経新聞の正論メンバーとして活躍中。現在、都留文科大学副学長兼教授を務める。著書に「『海道東征』への道」「ハリネズミの耳―音楽随想」ほか多数。

滋慶学園グループ総長
浮舟邦彦さん

うきふね・くにひこ　昭和39年、関西学院大学法学部卒業。58年、学校法人滋慶学園理事長、62年、同大阪滋慶学園理事長。米ウエストフロリダ大学名誉教育博士。日本医療秘書学会理事長。現在、滋慶医療科学大学院大学と70校の専門学校などを経営する滋慶学園グループ総長を務める。

黄金色の景色浮かぶ

浮舟　2年前の11月20日でした。新保先生の解説をお聞きし、「海道東征」の第一楽章が雅楽のような調べで始まりました。クラシックの管弦楽と日本的な調べ、それから出演者の歌声、民謡、古謡がミックスされて、不思議な感覚の中で日本人のDNAが呼び起こされたような感じを強くしました。あんなに感動するとは思いませんでした。

新保　私も若い頃からクラシックファンですが、日本人の西洋音楽鑑賞はどこか頭で聴くというようなところがあります。日本人が作る西洋音楽もどこか観念的です。でも今回、信時潔の「海道東征」を聴いたとき、心からしびれるというか、これは違う、と本当に西洋音楽を血肉化した、数少ない作品だと思いました。

この曲が昭和10年代になかったとしたら、文化の欠落です。国際政治学者、サミュエル・ハンチントンは世界8文明の中に唯一1国1文明の国として日本を選びました。この曲は日本文明の柱になる曲だと思います。

浮舟　おっしゃる通りです。聴いておられた方は、おそらくいろんな方がおられたのでしょうが、かなり多くの方がハンカチを出しておられました。

文明の柱になる曲だ

第一章の「高千穂」でバリトンが歌いだして、黄金色に染まる瑞穂の国の景色が浮かび、第二章の「大和思慕」で「大和は国のまほろば、たたなづく青垣山」とソプラノが歌いだします。もうこのあたりから、気持ちが入っていきますよね。

新保　入っていきます。信時がバッハ、ヘンデルとかハイドンのカンタータというものをいかに深く学んでいたかということですが、曲の構成がまた素晴らしい。最後に、第一章のメロディがまた戻って、円環的になっている作り方とか、音楽家の技術としても高いものを持っていた人だと思います。信時はドイツに留学してしっかり学んでいるのに、そういうものを表面に出さない、その辺がえらい。だから信時の曲は、聴けば聴くほど、味が出てくるのです。

浮舟　なるほど、なるほど。

新保　先ほど浮舟さんがミックスという言葉を使われましたが、日本人が持っていたものと、バッハから取り入れた西洋的なもの、「明治の精神」で言えば、接ぎ木ですね。「海ゆかば」「では、さらに万葉集の大伴氏の言立が接ぎ木されたということです。「海道東征」のあと、「海ゆかば」を聴くことで、信時と万葉集あるいは日本の古代が、日本人の精神として完結します。

信頼する2人 生まれた傑作

作詩 北原白秋

作曲 信時潔

浮舟　白秋の大和ことばの詩と構成も素晴らしい。元は古事記の「中つ巻」ですね。私はこの曲を聴いて古事記を読んだのですが、神話と歴史書が一緒になって編纂されているなんて、日本独特じゃないかと、また違った感動をしました。

新保　曲の最後がまた素晴らしい。「彌榮（いやさか）を我等（われら）」と、白秋は「我等」で終わらせるんですよ。あの大合唱がもう素晴らしくて、共同体の一員であるという、そういう感動ですね。

信時は紀元2600年の奉祝曲という大変な依頼だったので、できるかなと躊躇したようです。でも、白秋の詩を見て、感銘を受けたようですね。白秋の偉大さは、最後にこの民族の叙事詩を書いた点ですが、信時が作曲してくれたことに白秋も感謝しています。二人の信頼関係、それでできた傑作だと思います。

それをザ・シンフォニーホールという日本が誇る音楽堂で演奏されることがまた素晴らしいことだと思います。

浮舟　わらべ歌も入っていて、貴重な作品です。若い人にも聞いてほしいですね。12月になると日本人は第九を聴くじゃないですか。同じように、1年に一度はこの「海道東征」を聴くことがあってもいいのではないかと思っています。

2月2日を楽しみにしましょう。

交声曲
海道東征

チケット発売中

【日時】平成30年2月2日（金）午後6時半開演（午後5時半開場）
【会場】ザ・シンフォニーホール（大阪市北区）
【演奏】大阪フィルハーモニー交響楽団（山下一史指揮）、大阪フィルハーモニー合唱団、大阪すみよし少年少女合唱団
【ソリスト】幸田浩子（ソプラノ）、四方典子（ソプラノ）、荒谷栄里子（アルト）、小餅谷哲男（テノール）、萩原寛明（バリトン）
【曲目】モーツァルト：交響曲第41番「ジュピター」▷信時潔：交声曲「海道東征」
【料金】S席＝7000円、A席＝6000円（税込み）、発売中
【プレイガイド】ザ・シンフォニーチケットセンター（☎06・6453・2333、午前10時～午後6時、火曜休み）▷大阪フィル・チケットセンター（☎06・6656・4890、平日午前10時～午後6時、土曜午前10時～午後1時、日祝休み）▷チケットぴあ（Pコード330―213）▷ローソンチケット（Lコード52059）
【問い合わせ】産経新聞社事業本部（☎06・6633・9254、平日のみ）

主催　産経新聞社
共催　大阪フィルハーモニー協会
協賛　滋慶学園グループほか